

・大阪交響楽団 (<http://www.sym.jp>)

1980年創立。楽団代表・敷島博子が『聴くものも、演奏するものも満足できる音楽を!』をモットーに提唱。いつも聴衆を“熱く”感動させるその演奏は、「魂の叫び」「情熱の音」と評されている。音楽監督・首席指揮者：児玉宏、常任指揮者：寺岡清高、首席客演指揮者：キンボー・イシイ＝エトウ。

・大阪フィルハーモニー交響楽団 (<http://www.osaka-phil.com/>)

朝比奈隆によって創立された65年の歴史あるオーケストラで、「大フィル（だいフィル）」の愛称で親しまれている。ザ・シンフォニーホールで行われる年10回、各2公演の定期演奏会は計460回を超え、過去にはヨーロッパ、カナダ、アメリカなど世界各地での演奏旅行で大成功を収めた実績を持つ。大阪城西の丸庭園で開催する「星空コンサート」や御堂筋界限を中心に行う「大阪クラシック」など、市民がクラシック音楽を身近に感じることのできるイベントも精力的に開催。2012年には9年間に渡り音楽監督を務めた大植英次が桂冠指揮者に就任し、個性溢れる「大フィルサウンド」のさらなる飛躍が期待される。

・関西フィルハーモニー管弦楽団 (<http://www.kansaiphil.jp/>)

1970年発足。2003年、特定非営利活動法人(NPO法人)化。世界的なヴァイオリニストでもあるオーギュスタン・デュメイが2011年1月より楽団史上初の音楽監督に就任。藤岡幸夫は2007年4月より首席指揮者に就任。飯守泰次郎は2011年1月より桂冠名誉指揮者に就任した。常に新たな事に挑戦する個性派オーケストラとしてますます好評を博している。平成22年度大阪文化祭賞奨励賞を受賞。

・相愛オーケストラ (<http://www.soai.jp/wind/>)

相愛オーケストラは「サイトウ・キネン・オーケストラ」にその名をとどめる名教育者、故斎藤秀雄教授の薫陶を受けて1956年に創設され、現在もその独自の指導法を継承している。大きく5つのオーケストラに構成されており、弦楽オーケストラから、ウインドオーケストラ、フル編成のオーケストラがあり、総勢300名を擁するまでになっている。

・日本センチュリー交響楽団 (<http://www.century-orchestra.jp/>)

～あなたの夢、音にのせて～

日本センチュリー交響楽団（旧大阪センチュリー交響楽団）は、1989年に活動を開始した。2011年4月に名称を日本センチュリー交響楽団に変更し、小泉和裕音楽監督、沼尻竜典首席客演指揮者のもと新たなスタートを切った。大阪での定期演奏会をはじめ、近年ではさまざまな地域でも特別演奏会を行っている。

・大植 英次（「大阪クラシック」プロデュース）

大阪フィルハーモニー交響楽団桂冠指揮者、ハノーファー北ドイツ放送フィルハーモニー名誉指揮者。桐朋学園で齋藤秀雄に師事。1978年、小澤征爾の招きによりアメリカ・タングルウッド・ミュージック・センターに学び、同年ニューイングランド音楽院指揮科に入学。タングルウッド音楽祭でレナード・バーンスタインと出会い、以後世界各地の公演に同行、助手を務めた。

これまでにバッファロー・フィル準指揮者、エリー・フィル音楽監督、ミネソタ管音楽監督、ハノーファー北ドイツ放送フィル首席指揮者、バルセロナ響音楽監督、大阪フィル音楽監督を務め、2000年よりハノーファー音楽大学の終身正教授も務めている。2005年『トリスタンとイゾルテ』で日本人指揮者として初めてバイロイト音楽祭で指揮し、世界の注目を集めた。2006年から毎年大阪城西の丸庭園での「星空コンサート」や、御堂筋・中之島周辺の約30箇所で開催する「大阪クラシック」をプロデュース、多くの聴衆を魅了している。

レコーディングは、米国リファレンス・レコードより、ミネソタ管との12枚のCDがリリースされ、1996年「ストラヴィンスキー：『火の鳥』」と97年「展覧会の絵」が2年連続でグラミー賞ノミネート、2004年にはミネソタ在住の作曲家アージェントの作品集「グイーディの館」でグラミー賞を受賞した。さらには、ドイツ・グラモフォンやユニバーサル・ミュージックからもリリースされているほか、大阪フィルとのライブ録音シリーズ「エイジ オブ エイジ」がフォンテックより定期的にリリースされている。

2006年大阪芸術賞特別賞、齋藤秀雄メモリアル基金賞受賞。2007年大阪市市民表彰受彰。2009年ニーダーザクセン州功勞勲章・一等功勞十字章受章。